

第 66 回国際理解・国際協力・多文化共生のための全国中学生作文コンテスト東京都大会 金賞

創価中学校 1 年

浪江 大樹

課題 ③

平和と安全、貧困、気候変動など世界中で様々な課題がある中、国際社会が優先して取り組むべき課題は何か。

副題

「平和の種」

本文

僕の住んでいる街「東十条」にはある特色がある。それは多くの外国人が住んでいて国際色豊かな街であることだ。

駅前の商店街にはイスラム教のモスクがあり、トルコ料理のケバブや本場のインドカレーが味わえる店が並び賑わいをみせている。また、僕が通っていた小学校でも中国やネパール、インドネシアやバングラディシュなど海外出身の同級生がいて、言葉や文化の違いを越えてみんなと仲良くできたことが良い思い出となっている。

今の日本ではこのような環境は決して珍しいことではないと思うが、世界では命を奪い合う恐ろしい戦争が起きている一方で、僕の街では様々な国の人達と共生できていることに大きな魅力を感じている。そして、その人達に「日本は良い国だ」と思ってもらえたら、自分も誇らしく嬉しい気持ちになる。

しかし、世間では僕のような考えの人ばかりではなく、排外主義という風潮があることをニュースで知った。排外主義とは、自分が属する集団や民族を優先し、他の集団や外国人を敵視して排除しようとする考えの事だ。

僕がよく見ているユーチューブでも外国人のマナーの悪さを指摘するショート動画が拡散されていて、コメント欄は「日本の治安が悪くなる」「外国人は日本から出ていけ」などの批判の声で溢れている。

また隣町の川口市では、地域住民とクルド人との間でトラブルがあったことが明るみになり、ある政治団体が提唱した「日本人ファースト」という言葉の流行と共に、SNSではさらに日本人と外国人を差別化するような傾向に拍車がかかっていった。

実際に僕の周りでもこんなことがあった。それは床屋で散髪をしていたときのこと、僕のとなりで店主が客にこんなことを話していた。

「最近できたゲストハウスに毎日たくさんの外国人が出入りしているんだ。そのうち犯罪でも起きやしないかと心配だ。ゲストハウスはなくなって欲しいよ」と。

その会話を聞いて、「外国人が増えると犯罪が起こる」というのは事実なのだろうか？と僕は疑問

に思った。実際に僕の家付近にも外国人がよく利用するゲストハウスがあるが今までに犯罪が起きたことは一度もないからだ。

世間では確かにマナーを守れない外国人や、犯罪をしてしまう外国人がいるのは事実だ。しかし、それは一部の人であってみんながそうではないはずだ。不確実なSNSの情報を信じ、勝手な思い込みで外国人を排除しようとする風潮は立派な人種差別ではないかと僕は思った。

小さな火種が大きな山火事へと拡がるように、何気ない言葉が相手を深く傷つけ大きな対立に発展することもあるだろう。

世の中は戦争のない平和な世界を望んでいるが、それはきっと自分たちの身近なところで、お互いを正しく理解し受け入れることから始まるのではないかと思う。

僕はこれからも対立の火種をまくのではなく、お互いを思いやる優しい種をまくことで世界が平和になるように行動をしていきたい。